

# 心ひとつに

弥富市立桜小学校  
学校だより  
No.8  
平成26年7月3日

## みんなで つくろう 笑顔の輪」集会

6月30日(月)、児童会主催による「みんなで つくろう 笑顔の輪」集会が開かれました。最初に生活・美化委員会による「桜っ子しぐさ」の発表がありました。どれも人のためになる、心優しい所作が発表されましたが、「友だちの悩みを聴いてあげる」「1年生に優しく声がけができる」「誰も見ていなくても、そっとトイレのスリッパをそろえる」など、昨年度よりも価値の高まりを感じるものがいくつもありました。

図書委員会による読み聞かせでは、「仲間はずれにしていたシマシマ魚」を、皆でサメの襲撃から助けるというお話でした。ややもすれば、子ども達の日常生活でも起こりうる状況下において、仲間のために「どうすればよいのか」「どうすべきなのか」をお話を通して感じ取ってくれたことと思います。

次に児童会執行部による「レスキューゲーム」を行いました。学年の枠を超えた「仲間づくり」のゲームですが、互いに協力し合い、知恵を出し合い、全員が条件に合った仲間づくりのために、譲り合ったり、迎え入れたりすることができました。



最後に、「Forever」を全校合唱しました。「みんなで つくろう 笑顔の輪」集会のエンディングにふさわしい、子ども達の達成感が伝わってくるような迫力ある歌声でした。

## 小さな命—全校朝礼の話より(6/30)

みなさんの家でツバメが巣を作っているのを見たことがありますか。親鳥が低い位置をスピードをつけて飛んでいるので、時々ぶつかりそうで怖いことがありますね。ツバメは巣ができあがると、その中に卵を4~5個産んで温めます。3週間ほどでヒナが産まれますが、その後の子育てがとにかく大変です。ヒナ1羽は1日100回ほど餌をもらうので、親鳥は毎日400~500回も餌を運び続けることになります。だから、1日中飛び回っているのです。親鳥は、空中を飛びながら小さなトンボやチョウチョ、蚊、シロアリなどを捕まえ、口にくわえてヒナの元へと運んでいきます。昇降口の巣で子育てが始まり、親鳥が運んでくる物やその回数の多さに驚いた人もいると思います。

普通、鳥は敵から身を守るために「どこに巣があるのかな?」と探してもなかなか見つからない場所に巣を作ります。でも、ツバメは、学校の昇降口や駅のホーム、商店街のアーケードの中などのように、人が大勢いる所に巣を作ります。なぜでしょう。それは、人が大勢いる所には最大の敵であるカラスやへびなどが来ないので、安心して子育てできることを知っているからなのです。

ツバメは、人間が自分たちを守ってくれると肌で感じているのです。信用されている以上、ツバメの巣をわざとつついて壊してしまったり、大声をあげてヒナを脅かしたりなど、いたずらは絶対にしてはいけませんね。ツバメの子育てが始まったら、ぜひ「僕たちがしっかり守ってあげるよ」という優しい心で見守ってあげましょう。

みなさんの中には、自分の家でお花を育てたり、カブトムシやスズムシ、小鳥やハムスターなど、小さな生き物を育てている人がいるかと思います。このお花も虫も、小鳥やペットもみんな小さな命をもっています。その小さな命を大事にしていこうという優しい心を、しっかりもって育てていってください。

最近、桜小のウサギ小屋で飼育しているウサギのラスクがずいぶん人に慣れてきました。以前は、人の姿を見ると、すぐに隠れました。一番警戒心が強く、怖がりやさんでしたが、飼育委員会の担当の先生や飼育委員会のみなさんの優しいお世話のお陰で、変わってきています。

このように、もし自分が、お花や虫やペットだったら、どうされるとうれしかなと考えて面倒を見てあげると、きっと上手に育てられると思います。